

vol. 111通信 (平成21年11月9日発行)



発行元：株式会社サポート・ワン・サービス
愛知県津島市愛宕町四丁目113 〒496-0036
代表TEL：(0567) 26-3921
FAX：(0567) 26-3922
ホームページ <http://www.s-o-s.co.jp>

＜秋の大運動会／愛宕の家、ナイス・デイ、ナイス・ホーム＞

10月22日～25日は運動会を開催です。種目は玉入れやパン食い競争、スリッパ飛ばし等々。リクエストの多かった綱引きは実現出来なくてごめんなさい。気合いと裏腹に反対方向へ飛んでしまうスリッパ、なぜか相手チームのかごに入ってしまう玉、パン目がけていつもの倍速で進む人、負けず嫌いなところや器用なところが判明した人、進行役のスタッフは大きな声を出しすぎて喉が痛くなりスピーカーを使う程(笑)…笑すぎて涙が出るほど賑やかで楽しい運動会でした。運動会を通じて、体を動かす楽しみや競う意欲を感じたり、子供の頃を思い出したりしてもらえたら嬉しいです。「お疲れ様」と「来年もまた元気に運動会をしましょうね」という気持ちを込めて全員に感謝賞を贈らせていただきました。



＜避難訓練／S・O・S＞

毎月20日は避難訓練の日です。10月の避難訓練は津島消防署員さんにも来て頂き、水難のため愛宕の家の2階に避難した後、1階の厨房から火災発生の為、別の建屋に避難という想定で大掛かりな訓練です。自分で歩ける利用者さんは階段を「よいしょ、よいしょ」と昇降し、歩けない利用者さんは布団に包まれスタッフの人力で避難を完了しました。避難完了まで約20分…スタッフは汗びっしょり！消防署員さんから「避難や消火は一人では出来ず、全員の協力が大切」「まず火事を出さないこと」というお話の後で消火器の使い方の講習会があり、スタッフ・利用者さん共に消火器(中身は水です)の使用方法を習得しました。「毎日の体操以上に疲れた…」→ 頑張った証拠ですよ！



＜週1回開催／ナイス・ホーム＞

9月より再開したナイス・ホーム。管理者・ケアマネ・介護・看護のスタッフが役割を認識し、情報の統一を図っていくと、カンファレンスを毎週1回行うようにしています。特殊な動きをする制度なので、カンファレンスの内容も独特ですが、各職種の連絡や連携を取りやすくしておかないと小規模多機能らしさを発揮できません。少しでも、利用者さんによりよいサービスを提供できればと思います。登録定員12名に対し、現在の登録は3名です。



＜社内LAN開通！／S・O・S＞

これまで1日の予定が記載されている日程表は事務所のパソコンでしか見られなかったのですが、社内LANの整備で、事務所、ナイス・デイ、愛宕の家、ナイス・ホーム…どこかのパソコンからでも予定や業務日誌の読み書きが出来るようになった♪どこにいても情報の共有が出来るので、快適です。でも、情報を得て実際に考えて動くのは私たち人間。パソコンや情報に振り回されることなく日々の業務に当たっていききたいものです。



＜読書／愛宕の家＞



短歌を嗜む方、本好きな方、スポーツ観戦が好きな方と趣味を持つ人も多い愛宕の家。ご家族が届けてくれた本を「面白かったよ」という会話も聞こえてきます。ヘルパーと図書館へ行く後ろ姿も楽しそう。好きな本を楽しむために外出できるって、運動にもなるし、社会参加にもなるし、気分転換にもなるし…一石何鳥？

「何が出来るでしょうか？」なんて言いながら、3時のおやつには時々手作りのおやつが登場します。ホットプレートの上にはスタッフがTVで見たという“お好み棒”が初お目見え。ソースが塗られた懐かしい味を「美味しい」と頬張りました。さらにホットプレートではほうじ茶作りです。やや湿気を帯びてしまったお茶を煎るとほのかな香りが漂います。「お茶屋さんの前を歩いているみたい！」

老いの姿を学ぶ ～愛宕の家の日々より～ その9

Kさんの永眠……。

去る10月20日、愛宕の家と一緒に暮らしたKさんが永眠されました。

愛宕の家で最後まで看取りをさせて頂いたのは3日目になります。家族、スタッフ見守る中、とても安らかな死を迎えることが出来て、感謝と、長い間お疲れ様でしたという気持ちで、悲しみというよりも、むしろ爽やかな気持ちにさせて頂きました。Kさんとのお付き合いは6年前のデイサービスの利用から始まり、「老い」から「死」までの過程を家族の方々と2人3脚で過ごしてきた実感があります。脳梗塞による片麻痺、失語の障害を抱きながらも、好きなコーヒーを目的に喫茶店まで精一杯歩き、体操のときには「いち・に…」と大声が出て、ウトウトと居眠りかと思えば、かわいい顔で「エヘヘ」と笑顔を見せてくれたこと、なんとか口からご飯を食べてもらおうと苦労したこと等々…皆の中には思い出がいっぱいです。また、夜、眠れない日々や毎日の世話に、奥さんも疲れ果てて、愚痴や泣き言が出た時、お泊りを利用して一息ついて頂き、そんな過ごし方で6年の月日を経してきました。今年の1月、緊急入院のあとは鼻腔栄養となり、74歳の誕生日を迎えてからの3ヶ月間は、特に糖尿病による足の壊死や栄養管理、口腔ケアの方法など、医療と介護の連携や介護技術の多くを議論しました。そしてまた、病状の変化に動揺しつつ、死を受け入れていこうとする家族の方々ととの精神的な関わり方等、終末期の医療や介護の在り方をKさんの体を通して学ばせて頂きました。これからも、この経験を決して無駄にすることのないよう、スタッフ一同、看護・介護技術やその精神性を高めていきます。何よりも最後の看取りを愛宕の家でと望んでくださった家族の方々にスタッフ一同、厚くお礼を申し上げます。(I)

＜だあいすき！／社内託児＞

土日になると、ママさんスタッフと一緒に子供たちも沢山やってきます。子供好きの利用者さんも多く、また子供たちから好かれている利用者さんも多くいます。一緒に遊んでくれる人は勿論ですが、ちょっかいをささず一緒に居て、いつも見守っている人の子供はちゃんと知っているようです。



＜ご協力御礼／ナイス・デイ＞



出来たてホヤホヤの通信を折って下さるのはデイの利用者さんです。スタッフが折り畳もうとしていたら、「持っておいで。手伝ってあげる」の嬉しい一言。いつも1時間以上かかる作業が15分程度で終了しました。ありがたいこと！これからもお願いしたいかしら！？

＜食の秋／ナイス・デイ＞



編集後記

11月に入り、一気に寒さがやってきました。愛宕の家は床暖房が入っているので冬でも比較的暖かいのですが、それでもポカポカ陽気から一転しての木枯らしですから、利用者の方々は上着を着たり、夜は毛布を出したりしています。お泊りを利用されている96歳のOさんは、夜中、トイレに起きた時、お手伝いしている私に「ありがとね。あったかくして休んでね。外は寒いから」とニコリ笑って優しくお話してくれます。毛布よりも温かい言葉に気持ちがポカポカします。真夜中の小さな交流…介護に携わっていて良かったと思う瞬間です。(M)